

SC中心に取り組み広がる

自然災害が多発し、SCでの防災がますます重要になるなか、防災啓発イベントなどを行うEnPar（エンパル、東京、金藤純子代表）が防災研修「ESぼうさい」をSCを中心に実施し、研修先を広げている。このほど専門店アイジーエー（福井県越前市）、JR大船駅ビルのルミネウイング（神奈川県鎌倉市）で実施し、参加者から好評だった。今後も取り組みを強化する。

災害は必ず起きる

エンパルは、金藤代表が岡山県倉敷市真備町の実家で18年7月の西日本豪雨の被害を受けた経験を踏まえて、20年に設立。ESぼうさいは「ショップとSCが一体となって防災組織力を高める」目的で、23年1月の新静岡セノバ

エンパルの防災研修「ESぼうさい」

防災意識と組織力向上へ



店舗で発生するリスクについてワークショップで学ぶアイジーエーの店長ら

を皮切りに実施、同年8月にはアイジーエーでも行った。今年から研修先が広がり、おのだサンパーク、イオンモ

ール鹿兒島、錦糸町マルイ、東京オペラシティでも実施。金藤代表の西日本豪雨での経験を伝えるとともに、各施設が立地する地域の災害リスクをハザードマップをもとに分析し、ワークショップも交えながら、必要な防災対策を参加者が学ぶ。

ルミネウイングでは9月9日に2回に分けて実施、店長を基本にほぼ全店の約80店のスタッフが参加した。研修を実施したのは14年に発生した台風18号によって近隣の柏尾川が氾濫し、大きな水害があったことに加え、「最近の豪雨を見て、お客様や地元に住む多くのスタッフの安全対策がますます重要と考えた」

（重森淳一社長）ため、同日朝に行った避難訓練に合わせ実施し、館全体で防災意識を高めた。

研修では金藤代表が14年の被災状況をハザードマップを示しながら分析。参加者に自宅周辺のハザードマップをチェックし、自身の被災経験も踏まえ、生活必需品の備蓄などとともに、避難所の場所や行き方、避難所以外の避難対策などを事前に決める重要性を強調した。「災害は必ず起きる」という危機意識を持ち、デイベロップとショップ、インフォメーションなどのスタッフが信頼し合い、同じ方向を見ることが不可欠」とも指摘した。参加者からは「ハザードマップをこれまで意識しておらず、良い気付きになった」「安全だと思っていた近隣のリスクを認識でき

台風で店舗が被害

アイジーエーは、全国にある店舗の店長とスタッフ一人ひとりが「自分事」として防災を意識し行動できるように、店長研修会で防災セミナーを実施している。

19年10月、台風19号によりピオニウオーク東松山（埼玉県東松山市）が浸水し、当時出店していた店舗も大きな被害を受けたほか、今年1月に発生した能登半島地震でも店舗被害やスタッフの避難など影響を受けた。これを機に、備蓄品の見直しはもとより「全国各地の店舗で働く全スタッフが防災意識を高め、それぞれ命を守る行動ができるようになることが急務」（五十嵐昭順社長）と考え防災セミナーの開催に踏み切った。